早川町応援団獲得マガジン

# やまたらけ

YAMADARAKE

MARCH
No.88
2019

## ここに花を咲かせましょう

「枯れ木に花を咲かせましょう」とは、民話『花咲かじいさん』に出てくるお馴染みの文句。正直で心優しい老夫婦と飼犬との不思議な物語の結末は、灰となり巣てた飼犬の形見が、この老夫婦に思わぬ幸福をもたらせます。

この早川町には、枯れ木ならぬ耕作されなくなった休耕田に花を咲かせた物語が。昔ばなしや民話ではありません。舞台は京ケ島集落。近所から分けてきた一株のハナショウブは、20年余りの歳月を経て、1反（10a）を優に超える、見事な花しょうぶ園と成長しました。手入れを続けたのは、主に笠井一三（かさい・ひふみ）さんと齊藤嘉市（さいとう・かいち）さんの二人です。平成29年（2017年）からは、地元・京ケ島集落の有志が実行委員となって、『花しょうぶ園祭り』を開催しています。噂を聞きつけた観光客の、付近を散策する姿も、珍しいものではなくなりました。

ともすれば、ぼうぼうの草ムラにもなり兼ねなかった。そこへ見事に花を咲かせたこの物語から、私たちは、どんなことを学ぶことができるのでしょうか。未来へ繋ぐ、今号はそのための〝まちつくり試論〟です。（上原佑貴）

## 花しょうぶ園ができるまで

この土地は、もともと田んぼ。足を踏み入れれば、腰のあたりまで埋まってしまうほどに土壌が深い。

花しょうぶ園を維持するための草刈りは年3回。特に春のタイミングにはこだわりがあり、つぼみが見えた頃におこないます。これより遅くなると、刈り倒した雑草が黄ばむ時期に花の見頃が重なり、見栄えが悪くなってしまう。それでも「今年(平成30年)は(花の見頃が)一週間早かったなぁ。暑かったから、一気にパッと咲いた。」と振り返ります。6月中旬に私が見に行ったときは、綺麗だなぁ、と素直に思ったものですが、手入れをしている二人には、思い残すものがあったのかもしれません。

植え付けも安易な作業ではありません。植え穴は大きめ、しかも蔓延った雑草の根は丁寧に取り払います。株分けしたハナショウブの根付きがよくなるように、そして、その後の雑草の管理を考慮して。これだけの面積まで、そうして徐々に広げていきました。

さらにこの範囲には、現在は鹿避けの金網が張られています。京ヶ島集落の山側には、害獣侵入防止のための柵が張り巡らされているそうですが、これでは川を渡ってくる鹿に対応できず、導入したのだとか。

花しょうぶ園ができるまで、そして維持のためにかけられた労力は、大変なものです。

その手入れの姿に、周囲の人も皆、目を見張っていたという。「何より、これだけ長く続けたことがすごい。下の方(南側)から植えていったが、あんな風に(広い面積に)なるとは思っていなかった。」(談:地元男性)

◉文＝上原 佑貴

## それは、花が好きだから

でもどうして、ハナショウブを植えることにしたのでしょう?

早川本流と雨畑川を軸に、深い谷あいを形成しているのが早川町の地形です。急斜面が多く、水田にできるような好条件の場所は少ない。野菜を栽培することもできたでしょう。でも二人はそこへ、観賞用のショウブを植え付けていきました。

「花が好きだから。見に来てくれる人が喜んでくれたら嬉しいじゃない。デイサービス(草塩集落にある早川町社会福祉協議会通所介護事業所)に勤めてたときは、みんな連れてきたよ。集落が草ぼうぼうになるより、こっちの方がずっといいじゃない。」と、一二三さんは言います。「『花しょうぶ園』って呼ばれているところも、ずいぶん見に行ったよ。そこで苗も買って、持ち帰ってきたりしてね。紫色のは山形から。それが4枚の花弁のやつ。花びらが3枚(三英咲き)のは櫛形、6枚(六英咲き)のもあるでしょう? 自然に交配するんだろうねぇ。白い花は植えた覚えはないけどね、いまは多くなってるじゃん。」、出来上がった花しょうぶ園しか見ていない私には分からない、この場所に折り重ねられた時間と景色のうつろいを垣間見て、話を聞きながら幸せな気分になっていきます。

## まんのうがん

〝まんのうがん〟とは、山あいの厳しい環境で生き抜く中で身に付いた生きざまで、一人何役もこなす多能の人をこう呼ぶ。何にでも効

2018年に開催された「花しょうぶ園まつり」のチラシ

「花しょうぶ園まつり」の第1回目の開催が載っている記事。(山梨日日新聞 2017年6月16日)

く万能丸(薬)から転じたと言われますが、早川の深い谷あいでたくましく暮らしてきた人々を捉える上で、キーワードとして、日本上流文化圏研究所ではずっと大切にしてきた言葉です。

そしてこの二人はそろって、まさに〝まんのうがん〟と呼べるのではないでしょうか。

花しょうぶ園まで含めれば、耕作している面積は4反半(45a)にもなるのだとか。取材をした季節だけでも、ゴボウ、ニンジン、白菜、キャベツ、こんにゃく…、購入している野菜はほとんどないという。取材のあいだに出てくる、自家製素材を使った二三さんの手料理には、どれも舌鼓を打ちます。

笠井一二三さんは、花しょうぶ以外にも多くの美しい花々を栽培している。

かつて左官の仕事をしていた嘉市さんは、野良仕事も山仕事もなんでもやってきたと言います。昭和47年(1972年)に建てた自宅は、自分の山でとれた木を使って、自分で造ったのだとか。講師を務めるという、しめ縄作り講習会や、親せきがたくさん集まる、正月向けのこんにゃく作りの様子も、後日、見学させてもらいました。しめ縄の材料となる藁や稲穂は、もちろん自分で栽培したもので作ります。

世話をせずにいられない。取材しながら、ふと二人のそんな性質に気づきました。この言い回しでは語弊があるかもしれませんが、それはつまり、身の回りの環境に対する当事者意識が高いということ。石垣の崩れかかった耕作放棄地や手入れされなくなった薄暗い人工林など、時代の流れで生産性の期待できない場所には、関心が薄れるばかりの現代にあって、自分たちの手の届くところから仕上がる二人の暮らしには、放っておける場所などないのでしょう。

世に横行する「過疎問題」や「地域おこしとは何か」といった議論も、この人達には通用しない。むしろ上滑りしていってしまう。

## まあ、お茶でも飲めし

最初に二人のもとを訪問したのは、平成29年、花の見頃を間もなく迎える6月初めでした。『花しょうぶ園祭り』を開催すると聞いて、どんなものかと見に行きました。その時はまだ花はまばらで、ほかには端に生えているアヤメが咲いているくらいでしたが、何よりもこの広い面積と、行き届いた管理に感心して、ぜひ話を聞いてみたいと思い立ち、お宅を伺いました。

「そうかい。まあ、お茶でも飲めし(お茶を飲んでいきなさい)。」突然の訪問にも関わらず、快く居間へ迎え入れてくれたときのことが、いまも深く印象に残っています。

今号に向けて、あらためて取材をしているあいだにも、用事で訪れた地元の郵便局長さんを家の中へ呼び入れ、一緒にお茶をする時間がありました。その中での世間話は、私も興味本位でいろいろ質問することもあり、時代も場所も方々へ飛びます。家族で一人生き残り、満州から引き揚げてきたという、嘉市さんの壮絶な戦争体験談も、いろんな職に就いたという、二三さんの若い頃の苦労話も、話すときはいつも笑顔です。そして郵便局長さんが帰るときには、「引き留めてごめんねー。」と送り出す。

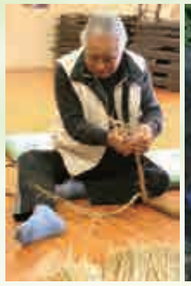
この日(平成30年12月中旬)の取材は午後からアポを取っていましたが、午前中は親せきが来ていたという。二人も「ここには人がよく来る。」と言いますが、取材を通して、その意味が少しわかったような気がします。

どれもこれも、こんな見事な花しょうぶ園をこしらえてさえ、「見に来てくれる人が喜んでくれたら嬉しいじゃない。」と言うその心意気に、皆少しずつでも、勇気づけられているのですね。「まあ、お茶でも飲めし。」、ここに足を運ぶ人にとって、それは心ときめく魔法のコトバ。

近所には、自分でも栽培にチャレンジしようと、株分けした苗を分けてもらう人がいるのだとか。「『花しょうぶ園祭り』も、いつか隣の草塩集落と一緒に開催できるようになったらいい、という人もいるよ。花は綺麗だし、そうやって広がったら、また賑やかになる。今年からは自分も、草刈りには参加しようと思っている。」(談:地元男性)。

物語は続く。まちつくりの新たな段階が、始まろうとしています。

一二三さん。取材で訪れた際に見せてくれた真剣な眼差し。



しめ縄作り講習会で作業中の嘉市さん。

嘉市さんが楽しそうにこんにゃくを作る。


2019
花しょうぶ園まつり
2019年は
6月7日~24日頃の
開催予定です。
問い合わせ 早川町役場振興課 TEL0556-45-2516

京ケ島・草塩を歩こう!

※京ケ島地区と、隣接する草塩地区のマップ(一部)　各ポイントの詳細を載せている全マップは、上流研のブログ(http://blog.joryuken.net/?eid=592)に公開しています。

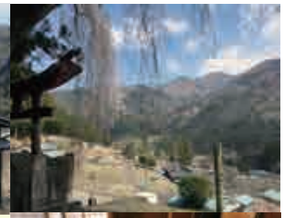
## オープン情報

# やまだらけの初代編集長が、古民家一棟貸しの宿「月夜見山荘」と手打ちそばと山の食の店「おすくに」をオープン！

早川町西之宮集落に、早川の山の暮らしにこだわった宿と食堂がオープン。見晴らしの良い高台にある古民家を改装した宿は、一日1組限定。囲炉裏でバーベキューをしたり、薪ストーブの前でまったりコーヒーを飲んだり、縁側で山や星空を眺めたり、他のお客さんに気兼ねすることなく、田舎暮らしの醍醐味を存分に味わえます。

また併設する食堂は、ランチタイムは一般の方も利用できる手打ちそば店として営業。ディナータイムは宿泊客、予約客向けに、山菜、きのこ、川魚、ジビエなど山の恵み満載のコース料理が提供されます。やまだらけの歩みとともに早川の暮らしをつぶさに見て来たオーナーが、満を辞して提供する「山の暮らしの豊かさ」を満喫してみてはいかがでしょうか。

ちなみに、お店の名前は、この集落にある十二神社に祀られている月夜見命（ツクヨミノミコト）からつけられたとのこと。シダレサクラが美しいこの神社も、春のおすすめスポットです。



宿「月夜見山荘」　通年営業　定員10名
食堂「おすくに」　営業時間：ランチタイム11:30～14:00（火曜、水曜定休）
ディナータイム18:00～21:00（2名以上で要予約）
問い合わせ、ご予約　住所：山梨県南巨摩郡早川町西之宮1094
電話：0556-45-2021
HP：https://tsukuyomi-sansou.jimdofree.com/

## 5月3日　南アルプス早川山菜まつり

毎年恒例、春の恵みを味わえるお祭り。山菜直売、特産品や農産物の販売、子どもも遊べる広場や、ゲストに松原のぶえさんを迎えた歌謡ショーなど、様々な催しが行われます。

日程／5月3日（祝）
場所／町民スポーツ広場
時間／9:00～14:00
問い合わせ：早川町役場振興課
TEL：0556-45-2516

## 5月25日　山梨県人会連合会 創立70周年記念総会・大会

県内27市町村のご協力をいただいての開催です。総会、記念式典、祝賀会といった流れで、早川の白鳳太鼓も参加されるそうです。町内の皆様もどうぞご参加ください。

日程／5月25日（土）
場所／アイメッセ山梨
時間／9:00開門、10:00開場、11:00開会
問い合わせ：山梨県人会連合会
TEL：03-3256-3015

# 南アルプス生態邑イベント

## 4月13日～14日　ちびっこ集まれ！ はやかわもりもりキッズ

幼児とその親御さん向けのキャンプイベントです。春のテーマは山菜・野草。生きものの気持ちになって、五感を使いながら食材を探します。集めた食材は青空の下でクッキング！夜の森を探検するナイトハイクもあります。

日程：4月13日（土）～14日（日）　1泊2日
対象：3歳～7歳のお子様のいる家族
参加費：大人：10,000円（1泊3食付・税込）
幼児：7,500円（1泊3食付・税込）
定員：7組
締切：4月6日（土）
（先着・定員になり次第締切）

## 5月24日～26日 5月29日～31日　早川 バードウォッチングツアー 憧れの夏鳥を探そう

自然豊かな早川町だからこそ出会えるたくさんの野鳥を求めて町内を巡ります。アカショウビンやキビタキ、オオルリなどの夏鳥を探しに行きましょう！専門性の高いガイドが野鳥の行動や生態も詳しく解説します。ガイドと一緒にじっくり観察すると新しい発見がありますよ。

日程：5月24日（金）～26日（日）
5月29日（水）～31日（金）　各2泊3日
対象：中学生以上
参加費：大人：25,000円（2泊6食付・税込）
定員：各回14名
締切：5月18日（土）（先着・定員になり次第締切）

## 4月3日～7日　早川ぶらりまち歩きプラン 桜咲く江戸の宿場町・赤沢

江戸時代から昭和初期にかけて賑わい、今も当時の町並みが残る赤沢宿を散策してみませんか？ガイドが赤沢宿の歴史や文化を紐解きながらご案内します。当時の様子に思いを馳せながらお花見も楽しみましょう。人を惹きつけてやまない赤沢宿の魅力をとことんご案内します。

日程：4月3日（土）～7日（日）期間中の1泊2日
対象：小学生以上
参加費：大　人：9,500円（1泊2食付・税込）
小学生：7,800円（1泊2食付・税込）
定員：9名/日
締切：各宿泊日の3日前

## 4月27日～5月5日　ゴールデンウィークプラン

GWは昼も夜も自然体験のイベントが盛りだくさん！生きものの専門家が春の森を楽しくご案内します♪日中は春の新緑ネイチャーガイドツアー、夜はナイトハイクと、お好きなイベントをお選びいただけます。さらに野鳥公園の入園2日間無料と葉っぱコースターづくりの特典付き。

日程：4月27日（土）～5月5日（日）期間中の1泊2日
対象：小学生以上
参加費：大　人：8,500円（1泊2食付・税込）
小学生：7,300円（1泊2食付・税込）
定員：20名/日
締切：各宿泊日の3日前

上記4イベントの申込：南アルプス生態邑/ヘルシー美里
TEL：0556-48-2621　FAX：0556-48-2622
HP：http://www.hayakawa-eco.com/
E-mail：info@hayakawa-eco.com


霊峰七面山の登山口であなたの旅を支える
株式会社 俵屋観光 バス ジャンボタクシー
有限会社 俵屋旅館 宿泊 宴会 法事などに
〒409-2732 山梨県南巨摩郡早川町高住621 電話0556-45-2500

地域発展のお手伝い！地域の暮らしを守る！
早邦建設株式会社
【本社】〒409-2732 山梨県南巨摩郡早川町高住645-27 TEL.0556-45-3000 FAX.0556-45-2288
【生コンクリートプラント】TEL.0556-45-2700
http://www.soho3000.com/

太めで噛みごたえのある、香り豊かな昔ながらの「田舎そば」
そば処 アルプス
【平日】11:30～15:00 【土日】11:30～16:00 木曜定休
ホームページ：h-alps.jimdo.com

早川町で感動体験を・・・
南アルプス生態邑
光源の里温泉　ヘルシー美里
南アルプス邑野鳥公園
ご予約・お問い合わせ
TEL/0556－48－2621
http://www.hayakawa-eco.com/hmisato/

生命保険、損害保険のことなら
株式会社　さいとうエージェンシー
tel.055-280-3360　fax.055-280-3361
自動車販売、オートリース、レンタカーのことなら
有限会社　S・T・E・P
tel.055-280-3350
〒400-0422　山梨県南アルプス市荊沢 1356-1

アッチ・コッチ・ソッチの
小さなおばけシリーズ40周年！
幼児～小学校低学年向き
おばけのアッチ スパゲッティ・ノックダウン！
角野栄子 作／佐々木洋子 絵
外国に行っていたエッちゃんが、久しぶりにアッチのお店に。すると、ドララちゃんもやってきて、エッちゃんのスパゲッティを食べてしまい……！
ISBN978-4-591-16113-5　定価：本体900円
ポプラ社　千代田区麹町四丁目二番地六 8-9F　☎03(5877)8101

日新火災　日新火災海上保険 代理店
幡野保険事務所
〒409-3306
山梨県南巨摩郡身延町夜子沢4020
TEL 090-8014-1337
FAX 0556-42-3073

ENEOS
浜田屋商店
電話 0556-48-2311

南アルプス街道の交通安全と清流早川の自然を守ることを永遠のテーマに地域社会の発展に貢献する事を目指します。
早川砂利協同組合
理事長　井上聰一郎
山梨県南巨摩郡早川町小縄 26
電話 0556-45-2450

新築、改築、マイホームの事なら何でもおまかせ
日本建築のプロフェッショナル
株式会社 望月工務店
〒409-2713 山梨県南巨摩郡早川町保 1766
TEL・FAX　0556-45-2661

# やまっこの冒険

## No.06 早川南小学校　吹奏楽

早川南小学校は、昭和43年に本建小学校と五箇小学校が統合し、平成29年には創立50周年を迎えました。吹奏楽活動は約50年続いており、読書活動なども盛んです。また、広い廊下や吹き抜け、さらには世界的に有名な指揮者が設計に携わった音楽ホールがあるなど、学校教育に沿った建築設計がされています。

今回は、早川町で生まれ育ち、お子さん2人が南小に通う井出さんにインタビューし、当時と今の南小や吹奏楽、町での暮らしについてお聞きしました。

～井出さんプロフィール～
・妙福寺の住職。
・早川町で生まれ、育つ。南小を卒業。
・2人のお子さん（現在小学生）のお父さん。

当時の全校児童は60人程。当時も大人数とは決していえませんでしたが、金管楽器だけでなく木管楽器もあり、関東大会に出場するなど輝かしい記録を残しました。児童達は、関東大会出場という明確な目標があり、それに向かって日々練習に励んでいたそうです。

現在は全校20名になりましたが、全校で共に学び、遊んでいます。北小の児童とは、月1回上流研で開催している子どもクラブで顔を合わせ、山の遊びを知り、共に学ぶ場になっているとの事。取材当時、11月に開催され県内の小学校が披露する「バンドフェスティバル」や、6年生の最後の演奏の場で、下級生から感謝の気持ちが表される「ありがとうコンサート」に向けて週3日の練習が行われています。南小では、全校児童が楽器に触れ、音楽を皆で奏でる楽しさを味わうことができます。

井出さんは、9年前から早川町で一家で暮らしています。町外出身の奥さんに町の好きなところを聞くと、「空気がキレイで静かな所です。」だそうです。また、お子さんが伸び伸び生活できるところが喜ばしく思っています。学校だけでなく地域全体としても、お子さんが生き生きと暮らすことに協力的で育てやすいとの事。時代は移り変わっていきますが、歴史のある吹奏楽活動と南小をこれからも地域として応援していきたいです。

次回予告！（2019年6月上旬お届け）No.89
町内には、数多くの橋が架かっているが、人や物の行き来だけでなく、景観美として人々を魅了する橋も存在する。次回は、様々なエピソードを交えながら橋の歴史などを紹介する。

### やまだらけ定期購読のお願い

「やまだらけ」では、今後も「山の暮らしの価値」と、それを後世に守り伝える人々の活動を応援して参ります。

やまだらけは、広告料と会員の皆様の会費で成り立っています。会員の皆様には、やまだらけを毎号お届けいたします。会員として、この取り組みを支えてください。

【年会費】正会員：10,000円　賛助会員：3,000円
【振込先】ゆうちょ銀行　〇二九店
当座　0095644
【名義人】特定非営利活動法人
日本上流文化圏研究所

自分の好きな花を少しずつ植えていき、その花々を見て心が安らいだりする人や楽しみにしている人が大勢いる取り組みはとても素晴らしいと思います。ぜひこれを機にマップを片手に奥ヶ島・草塩集落を散策してみてはいかがでしょうか。お待ちしています。（望月千加）

山を開けば宝の山
【やまだらけ】

発行元/NPO法人日本上流文化圏研究所
住所/山梨県南巨摩郡早川町薬袋430
電話/0556-45-2160 FAX/0556-45-2268
https://joryuken.jimdo.com/